

生徒と保護者と先生の共育ニュースレター

Growing

February 2017
Vol. **54**
毎月10日発行

【本 部】
城東区今福西2-1-8モデラートWASHIMI 201
TEL.06-6939-0008

【今福教室】 城東区今福西 2-9-20 TEL.06-6934-4662	【今福第2教室】 城東区今福西 2-16-8 TEL.06-6931-2000
【諸口教室】 鶴見区諸口 4-14-9-1F TEL.06-6912-3984	【関目教室】 城東区関目 4-6-172F・3F TEL.06-6934-8117
【今津教室】 鶴見区今津南 1-6-2-1F TEL.06-6167-9722	【古市教室】 城東区古市 3-21-8 TEL.06-6931-0467

新カイチ式授業がスタートします。 厳選した映像授業と 個別の弱点を徹底指導。

英語については、受験対応の
独自プログラムとなり、大学入試時にも通用する内容です。



高木 秀章 (塾長)

当塾では本年3月より中学部で映像授業を導入します。

この映像授業に関しましては、昨年秋から検討を始め、社内で映像のメリットとデメリットを検討し、指導品質と成果を上げるための議論を重ねてまいりました。

使用する映像に関しましては、国内で配信されている全ての映像授業を確認した上で、当塾の授業品質と最難関レベルにも対応できるという条件で検討を重ね、最終的には大手進学塾と提携する形となりました。

また、映像授業だけで指導が終了するのではなく、生徒一人一人の得点力を上げるために、当塾で独自開発した、【レベル別入試問題】を使用します。

この模擬問題は、関西圏の難関私立高の入試問題より選別し、問題の思考法や生徒自身の理解度の低い部分や応用力につながる思考法や解法を生徒各人に合わせて指導することから、徹底的に弱点の克服が出来るよう工夫されています。

指導システムについての詳細は同紙の「カイチの教育」に掲載いたしましたが、これにより講師は、生徒の得点力アップと個別の弱点对策、受験勉強のプランニングにエネルギーを向けられます。又、生徒各人に対応することで、やる気の低下や思春期に起こりがちな心身のアンバランスにも対応し、出来る限り生徒の潜在能力を引き上げることに努めてまいります。

新指導法を導入する理由は、大学入試を端に、高校入試が大きく変わることからです。先に実施された2017年大学入試センター試験の受験傾向の変化は顕著です。全科目において設問の文字量が膨大に増加し、今まで以上に早く読む・理解するという基礎的能力がなければ対応できない内容です。又、設問の表現において抽象的部分も増え、解答については推察しなければならないものもあり、これまで以上の思考力が問われています。更に、データや具体的事象から、設問の意図を構造的に考えなければ解答を導き出せない問題等、マークシートとは思えない、「応用力」が問われています。

既に、公立高校入試問題についても、昨年も問題傾向を大きく変えており、英語に関しては、この3月の入試よりC問題において、「実践的に使える」英語教育の転換に向け、出題傾向が変更されます。具体的には、リスニングとライティングのウエイトを従来28%から53%に引き上げ、リーディングに関しても設問を全て英語にするこ

とにより1分間に読む単語数が35語から95語に増えるという状況です。

今後の受験に対応するためトーキングキッズ(後TKと記載)はコンセプトをより明確にし、これからの受験制度を見据えた新プログラムとし、更に中学部では受験対策英語講座を開講いたします。

TKは、受験の基礎となる英会話、英文法を学び、英語を使うことを前提として指導を行います。カリキュラムは、ネイティブの生徒達と同じプロセスを経て効率的に学べるように作られています。テキストは私立高校入試頻出のアメリカの教科書や物語を採用し、受験の主流となっているアメリカ(ネイティブ)の英語を学びます。

TKの最大の特徴は、英語を使うためのプログラムであるということです。レッスンではスピーキングを重視します。ロールプレイング形式で質問し答えることをネイティブのスピードで反復練習することで、非常に早く英語に慣れていきます。

また、スピーチコンテストを定期的に行い、受験や社会でも求められるプレゼンテーション能力の基礎である、論理的説明と明確な意思表示をする力を養います。

TKの目的は難化し続ける高校入試に対応できる英語力とそれをコミュニケーション手段として活用する基礎力を身につけることにあります。そして、それが、今後中・高・大と続く英語学習を活かす基礎になると考えております。

また、中学生を対象とする受験対策英語講座では高校入試で問われるリーディング・リスニング・ライティングを強化するとともに、今後の出題傾向である活用型問題への対策も視野に入れた指導を行います。

外国人講師による指導のもと、アメリカの中高校生向けのニュース番組や英字新聞などを題材に自分の意見を英語でまとめる指導や、英語で話された内容を書き取るディクテーションによりリスニング力・ライティング力を伸ばします。

時代の変化の中で、求められる学力が変化し、受験制度が大きく変わっていきます。このような時であるからこそ、私達地域の学習塾が生徒達や地域の皆様に来ることがあると考えております。皆様の期待に応えられる学習塾であり、皆様に期待される学習塾を目指します。

今年度も新学年が始まります。何卒宜しくお願いいたします。

CLASSROOM REPORT 教室レポート

残すは本命公立入試 最後の最後まで悔いを残さず、 みんなで頑張りよう。

熊谷 周作 (今津教室)



寒い日が続いています。私立入試が終わり、残すは本命、3月9日(木)の公立高校入試を残すのみです。生徒の皆さんは、私立入試が終わり少しホッとしているかもしれませんが、公立入試の人にとっては、ここからが本番です。

今年度、今まで担当したことがない今津教室の中3生を担当するというので、私自身不安で一杯でした。しかし、今津生は、みんな人懐っこい生徒達で、予想以上に早く馴染めたように思います。

今津中3生みんなは本当によく成績を伸ばしました。多くの生徒が、授業でわからない箇所があれば、居残りで質問をし、居残り時間で質問しきれないときには、授業前や授業のない日に塾に来ていました。そして、その質問した内容をノートにまとめている生徒もた

くさんいました。自分のわからないところをまとめたこのノート作りは、言うならば自分の弱点箇所が詰まったオリジナルの問題集を作っているのと同じこと。受験生達は、ノートのページ数が増えると共に実力をつけていったように思います。

わからない問題はしっかり復習する。勉強において当たり前のように聞こえますが、その当たり前をどれだけ継続するか、大きな成果は、そんな当たり前を積み上げた先にある物ではないかと、改めて考えさせられます。

受験のこの1年間、クラブをやっている人たちは、クラブと勉強の両立を忙しい中、頑張ってきたと思います。成績が伸び悩んで嫌になることもあったと思います。それでも、皆さんはここまで頑張ってきました。

受験まであと僅か。せっかくここまで来たのです。最後の最後まで、決して諦めず、そして気を抜くことなくやり抜いてください。皆さんの学力は、努力を続ける限り、テストを受けるその直前まで伸び続けます。皆さんにとって、悔いの残らない受験になるよう、私達も精一杯サポートいたします。

保護者の皆様にとっては、心配だけだた見守ることしか出来ないという日々が続いているかもしれません。しかし、子供にとって保護者の方のその愛情ある見守りこそが最大の応援です。ただ、子供達が無理をしすぎないように健康面だけは配慮してあげるようお願いいたします。

何かご心配がありますときは、いつでもご相談ください。



自分が志望校に受かるのかそうでないのかにかかわらず、
受験をするにあたって勉強を怠ることは許されません。

Education

KAICHI'S ACTIVITY カイチの教育

3月より中学部は 新授業体制で授業を行います。

福井 幸司 (関目教室)



カイチは新年度より中学部の授業に「映像授業」を導入し、指導システムを一新します。従来の集団指導と同様に講師が前に立ち、クラスとしてリードしていくことには変わりありませんが、1つの机に1台のタブレットが置かれ、映像授業を活用していきます。

そこで今回は、新指導システムのご紹介をさせていただきます。

1 受験を見据えた指導システム

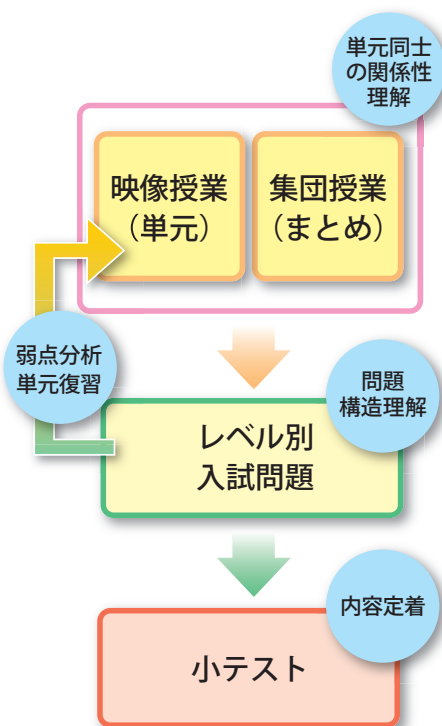
入試で問われるのは単元内容が複合した応用問題です。当然基礎知識がしっかりと定着していることが必要となりますが、授業内で学習した単元が、他の単元とどのように結びつき、どのような形式で問われるのかを日頃から意識できているかどうかが重要になります。

そこでカイチでは、単元ごとの授業は映像で、単元同士の関係は講師が集団授業で指導し、毎授業でレベル毎の入試問題を演習することによって、志望校レベルと自分の解けない問題のレベルを意識することで常に受験を見据えた指導を行います。

映像に関しては、国内で配信しているほぼ全ての映像教材を確認し、精査した上で私達の授業品質と最難関の受験にも対応可能な内容です。また、受験勉強にとって、単元毎の学習以上に大切なことは教科学習全体を見渡して考える視点です。全体として自分は今、どこを学び全体の中でどのような意味があるのか、またどの単元との繋がりの中で入試問題に出題されるのか。この単元同士の繋がりや、定期テスト対策などは従来通りの集団指導で行います。

また、授業の最後で行うレベル別入試問題では特に問題選別と解説にこだわりました。入試問題を講師が1題ずつレベル分けすることによって、常に目的意識と入試傾向を意識しながら学習でき、更に解説では、単なる解法を示すのではなく、問題の解法を、図とフローチャートで丁寧に示すことで、単元毎の知識をいかに組み合わせるか解法を構築する

できるように工夫してあります。また、解説には解法のプロセス毎にどの映像に戻って復習すればよいか書かれており、弱点理解と単元復習ができるようになっています。



2 映像のデメリットを克服する 講師のサポート体制

映像授業のデメリットは、生徒の授業の理解度やモチベーションの低下を把握できにくいこと、講師の熱意や工夫が生徒に伝わらないことです。

カイチでは、このデメリット克服のため、各講師が個別に毎授業毎に小テストを実施し分析とフォロー、入試問題演習から弱点単元分析による対策と指導、記述問題の添削指導などを徹底的に行い個人の理解度を上げ、得点力を伸ばします。

新授業がスタートすることで、生徒別の受験対策のプランニングをする事が可能となります。また、生徒一人一人との共有時間も、これまで以上に長くなることから、子供達のやる気不足やモチベーション低下もしっかりと支えていけると考えています。

3 弱点の克服と高難度問題への対応

映像授業のメリットは反復視聴と倍速視聴にあります。反復できることで、苦手箇所を把握すると単元学習に戻り、弱点克服が可能です。倍速視聴は、各個人レベルに応じた速度で学べることで、学習時間の効率化が可能です。つまり、学習の質が変わり、加えて時間を確保できるため、弱点克服や難易度の高難度問題に取り組むことが可能になることで、確実に得点力を伸ばすことにつながります。また、クラブと両立を行う生徒にとっては、遅刻時の補講も講師を待つことなく効率的に受講できるようになり、生徒達の負担が軽減でき、学習時間が確保できるようになります。

4 最後に

2020年に向けて大学入試制度が大きく変わり、その影響で高校入試の傾向(=求められる学力)が、知識の暗記やパターンに当てはめて処理する問題から、身に付けた知識を応用して解決していく問題へと変化しています。その結果、生徒達には、今まで以上に論理的に考える力や、記述式問題に対応できる表現力が求められるようになります。

我々はこれまでも精一杯の指導を心掛けてきましたが、「もっと手厚い生徒対応をしたい」という情熱があります。しかし、従来の枠組みでは越えられない物理的・時間的制約もありました。その課題をクリアするための新指導システムへの移行です。「映像授業」というツールを活用することで、これまで以上の生徒指導が可能となります。私達も万全の準備を行って参りますが、ご不安な点がございましたら遠慮なく各教室スタッフにお問い合わせください。

COLUMN : 先生紹介 ▶ 倉 将楨 (関目教室)



はじめまして。関目教室で個別クラスを担当している倉将楨と言います。昨年の3月に大阪国際大和田高校を卒業し、現在は大阪府立大学工学部に通っています。中学時代はカイチ生ではなかったのですが、カイチで個別クラスを担当している中学校の同級生から、誘っていただき、今カイチで働かせてもらっています。

今日は教えられる側から教える側になって、自分が学んだことについて書かせていただきます。

実際に教える側になって思うのは、「教えるって難しい」という事です。教えるというのは、自分がわかって、問題が解けるだけでは全くダ

メで、どうやって教えればこの問題、ひいてはこの単元を理解してくれるのかまで考えなければいけません。それに一人一人理解力も違います。これを生徒の皆さんから「わかりません」と言われてから、この子には「こうやって教えればわかってもらえるかな？」あの子は「この教え方ではダメだ。違うアプローチで行こう」と瞬時に考えなければなりません。

先輩の先生方はこれができるのですが、僕はまだまだこれができません。本当に生徒の皆さんはきちんと理解して帰ってくれているのかなと授業が終わるたびに反省しています。先輩の先生方は「僕らでもまだまだ難しく、できているとは思わないよ。授業して、反省し、反省したことを生かして、まだ授業をしているから」と言われ、僕自身少し気が楽になりました。

僕に今できることは一つ一つ丁寧に教えて指導することです。このことをずっとやっていこうと思います。

あと、一つ学んだことは「生徒のやる気を持続させる難しさ」です。僕達もそうですが、生徒の皆さんも「やる気がある時とない時」があると思います。個別クラスの皆さんの様子を見ていてもそのように感じます。この時にどうすればいいか非常に悩みます。しかし、自分の経験から言うと、やる気のない時もまずは勉強してみる。そして、それでもやる気のない時は思い切って、その日はリフレッシュする日にしてみて、次の日への英気を養うというのがいいのではないのでしょうか。リフレッシュする日ばかりになってはいけませんが、メリハリをつけて机に向かうことで、やる気も持続できるのではないのでしょうか。受験生は志望校を目標とするので、やる気がないなんて言っていられないかもしれませんが、中1、中2生の皆さんはメリハリをつけて学習し、やる気を持続させてください。中学の勉強はやる気と根気さえあれば、必ず成績は上がりますから。

まだまだ未熟者ですが、これから頑張っていて指導していきますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

高木の
ちよっと

TEACHER'S VOICE

イイ話

高木 直也 (諸口教室)

同時に皆さんからたくさんのことを教わりました。私にとってもその経験が次の受験生たちを合格に導く力となります。そんな皆さんに私達ができることは、受験前日まで寄り添い、悔いのない受験をさせてあげることです。最後の最後まで、みんなで第一志望目指して頑張りました。

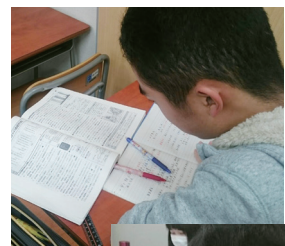
受験生のみんな、最後の最後まで弱点箇所の克服を

高校入試まであと少し、この時期になると毎年生徒たちの「底力」に驚かされます。

教室が開いていればたとえ朝からでも教室にきて、教室が閉まるギリギリまで勉強をし続けます。中学1年生や2年生には、「終わってすぐ帰るのではなく、わからないところはしっかり質問して帰りなさい」と指導しますが、受験生に対しては「もう遅くなるから帰りなさい」と家に帰すのも一苦労です。何も言わないと睡眠時間を削ってどこまでも勉強してしまう生徒もいますので、くれぐれもオーバーペースにならないように体調には気をつけるようにしてください。

これまでの入試にて、合格を勝ち取った生徒の多くに共通することは「自分の弱点を潰す努力」を惜しまなかったということです。自分で弱点を潰すことは容易ではありませんが、自分の弱点を見つけるのは問題に向き合っていれば誰にでもできることです。自分では解決できない問題に直面した時、「もう無理」と投げ出してしまおうのか、先生に質問し丁寧に潰すのか。どちらが合格に近づくのかは言うまでもありません。定期であれ受験であれ、成績アップの秘訣はxのところを○に変えていくこと。最後まで、弱点を潰す姿勢を貫いてください。

私たちは生徒に勉強を教える立場ですが、

カイチからの
お知らせ

- 2月4日(土)・2月11日(土)・2月18日(土)は新年度の入塾説明会・テストを実施します。新小4~新中3生で当塾に入会をご希望の方は、お電話でご予約ください。2月中ご入会の方は、入会金と年間教材費5,000円割引をさせていただきます。
- トーキングキッズの無料体験を2月中、今福教室 毎週木曜日、関目教室 毎週土曜日、諸口教室 毎週土曜日、今津教室 毎週金曜日で実施します。ご興味のある方は各教室へお電話でご予約ください。
- 3月9日(木)より新年度授業がスタートします。今年もよろしくお願ひいたします。
- 3月9日(木)は大阪府公立高校入学者選抜日、合格発表は3月17日(金)です。受験生のみんな最後まで気を抜かずがんばろう。